福の神

むかしあるところに、オドとアバと居であったわけだぁ。この家まだ、大百姓で、子供何人か居であったんでか、子ども居て百姓ならねわけだ。そこ家で、「このわらしだにかって、

百姓ならねし、なあんたでもいってがに、オイさ来て、わらしどこ見てくれる人いればいいなぁ」って、毎日願ったわけだ。したば、あっ時しゃぁ、昔へんじぇ(疥癬)と言ったもんだべしぇ、面さ出物して、汚ったねじいさん、乞食に来たわけだ。アバがしゃ、「じっちゃ、じっちゃ、何とかしてオイの家さ居で、オイのわらしどご、見てけれって。百姓ならねして困っているために」って言ったわけだ。「オレいんた、汚ねぇじっちゃどご、どうしてしゃ、おめだかまどさ入でっか」って。「なんぼ汚ねってもいいんてがに、なんとかこのわらしとこ見てけれ」って、こう言ったわけだね。じっちゃまだ、「おれ、汚ねってもいいごったば、おれ、見る」って居たわけだ。そこの家の人だまだ、いい薬買ってきて、つけるって薬買いに行くでぇぁ、医者に連れて行ぐって。じっちゃ言うにしゃ、「なぁんもいらねぇんてかに、オメんだのしゃぁ、舌で、汚ねやじなめってければそれでオレ大丈夫だんてがに、なんとかなめってけれ」っていうわけだ。オドもアバも、居て欲しもんだものねぇ。なめったわけだ。ちょろっとそのおじっちゃ、良ぐなったわけだ。でろっとよくなって、今度しゃぁ、「わい、いがったなぁ。オイのおじっちゃ、いぐなってなぁ」って。毎日まま喰うとき、「まま喰うでぇ。じっちゃ、起ぎれぇ」ってば、二日も三日も起こしたんだか、ある時、「まま喰でぇ。起ぎれでぇぁ」ていったば、いねわけだ。床っこみればポカポカっているわけだ。今でも起きだようになってるわけだ。「わぁい！、オラのじっちゃ、どお

さ行ったべげぇ。いねでぇぁ」って。雪っこちょろっと降った時で、その足元ずっとたどっていったど。したば、大っきた野原ね、そこにいで、足止まってあったわけだ。そこさ、金から宝物から、ままんで金あるものばり、山なってあったど。そのじいちゃがほれぇ、そこに居て神なってらたい、ほれぇ。家さ、背負ってきて、みんながら喜んでしゃぁ、そこの家大金持ちになったど。そいでとっぴんぱらりのぴんだ。

野村セツ(檜山　94歳)

〈解説〉

この痘痕面をした汚い爺さんは神様の化身であろう。その爺さんに親切にしてくれた報いとして宝物を授けるという報恩物語である。神様が化身して人の心に試練を加え、無心に病者を癒すという行為が、それに応えている。その結果としての大金持ちであった。